

「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム事業 令和4年度 活動報告



「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会では、美術館、図書館と地域の子育て支援団体、就労支援団体が連携し、あかちゃん、子どもから大人まで、あらゆる世代が気軽に楽しく文化芸術に触れることができる場づくりを進めています。令和4年度は、鑑賞会やワークショップ、講演会の開催、アート鑑賞のためのブックリストやワークシート作成を通じて、アートを楽しむ「みる・よむ・体験する」機会の創出に努めてまいりました。また、障がいを持つ方たちや、日本に暮らす外国語を母語とする家族など、文化芸術への機会を利用しづらい状況にある人々にとって、より参加しやすい環境を整えること（アクセシビリティを高めること）を新たな課題として取り組んできました。この報告書をご覧になり、ぜひお気軽に美術館、図書館にお出かけください。みなさまの心安らぐ居場所となれば、うれしく思います。

「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会規約（抜粋）

目的： 地域とともにある美術館と図書館、地域の子育て・就労支援団体が共働し、それぞれのネットワークと各施設が持つ場所を最大限に活用しながら、地域の文化振興と社会教育、生涯学習支援の更なる充実を目指す。

- 事業：**
1. 美術館を中心とする鑑賞促進活動。
 2. 図書館を中心とする読書推進活動。
 3. 地域への社会貢献を目的とする体験の普及。
 4. その他、目的の達成に必要な活動。

鑑賞会、ワークショップ、講演会の開催

美術鑑賞なんてむずかしそう、と大人でも思いがちかもしれません。でも0歳のあかちゃんでも、美術に親しむことができます。芸術との出会いは、子どもの感受性を刺激し、ことばや感情、知的興味など、さまざまな発達に影響を与えてくれます。あかちゃんから大人まで、アートに親しみぎっかけとなるよう、体験型の鑑賞会やワークショップ、講演会などを開催しました。

●ワークショップ「あなたの『好き』を描こう、つくろう」

2022年12月10日(土)

対象：外国語を母語とする3歳児～12歳児と保護者

参加者：6名 @ちひろ美術館・東京

講師：富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

外国語を母語とする家族に向けたワークショップを開催。韓国、中国、日本にルーツを持つ子どもたちが集まりました。保護者は子どもたちの制作のようすを見守りながら、富田さんからアートと子どもの成長についてのお話を聞き、また互いの子どもの育ちについて語り合う場ともなりました。日本に来て間もない家族もいて、英語の通訳を介してコミュニケーションを図りました。



●あかちゃん・子どものための鑑賞会

2022年12月11日(日) 対象：0歳児～小学生と保護者

参加者：30名 @ちひろ美術館・東京

講師：富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

前日に続き、富田さんを講師に親子のための鑑賞会を開催しました。午前は0歳から2歳のあかちゃんと保護者、午後は3歳から6歳の子どもと保護者が参加しました。「赤ちゃんも必ず見る作品がありますよ。どんな作品にどんな反応をしたか、気づいたことを記録紙に書いていきましょう。」と富田さん。幼児対象の午後は「感じたことをお父さんが表しやすいように」と富田さんがシールを活用した記録紙を用意。「この絵は楽しい感じ」「これはこわい」など、子どもたちが的確に作品世界を捉えていることにご家族は驚き、親子の対話が交わされていました。

●鑑賞会 「目の見えない白鳥さんといっしょにちひろの絵を楽しもう」

2023年1月8日(日) 対象：一般

参加者：6名 @ちひろ美術館・東京 ナビゲーター：白鳥建二(全盲の美術鑑賞者)

白鳥建二さんとちひろの作品を楽しむ鑑賞会。「作品の前に立って、何をいってもいいというのがルール。印象とか感想とか連想したこととか。」と白鳥さん。ひとつの作品の前で約15分、参加者は気づいたこと、感じたことを次つぎとことばにしていきます。「この部分に描かれているのは何だろう」と話しあったり、見る位置を変えることで描かれた子どもの表情が違って見えることを発見したり、さまざまな気づきがありました。



参加者の声

「話しながら、考えながら絵を深く感じるという不思議な経験」「一枚の絵にふたつ以上のストーリーがあることに初めて気づいた。」「話せるっていい。鑑賞会って楽しい。」「いつもと違う自分を発見した。そのことに感動した。」「まずストレートに絵を感じようと思った。」

●美術館の所蔵品カードワークショップ

ちひろ美術館と練馬区立美術館の所蔵品カードを使い、アートを楽しむワークショップを、10月と2月に場所を変えて行いました。広げられた160枚のカードから、出題された詩に合う作品を3点選ぶというプログラムでは、親子で相談したり、絞り込みに熟考する参加者の姿も。最後に自分が選んだカードを、選んだ理由とともに発表し、参加者全員で共有しました。

○ワークショップ「美術館カードであそぼう！」

2022年10月1日(土) 対象：小学生以上 参加者：11名
@練馬つながるフェスタin石神井

○ワークショップ「美術館カードで絵を楽しもう！」

2023年2月4日(土) 対象：未就学児～大人 参加者：32名
@石神井図書館



参加者の声

「人それぞれの発想、イメージの違いがすてきだった。」
「五感を使う感じで楽しかった。」
「絵のタイトルを知らないからこそ楽しめた。」
「色々な絵画にふれられて良かった。美術館に行きたくなった。」

●松本猛講演会「江戸からいまへ 日本の絵本の歩み」

2022年9月17日(土) 対象：一般
参加者：39名 @石神井図書館(23名)・@貫井図書館(10名)
・@南田中図書館(6名) 講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問)

美術館と図書館が連携し、開催中の展覧会への理解を深める講演会を、図書館を会場に行いました。石神井図書館で行った講演会を他の2館の図書館にオンラインで同時上映し、各会場で絵本の歴史について学ぶ機会としました。



参加者の声

「絵巻などから連なる絵本の成り立ち、面白さが興味深い。」
「絵本が生きている存在、メディアであることを認識できた。」

●親業講演会

「—今日から実践できる—子どもに気持ちが伝わる話し方」

2022年10月29日(土) 対象：大人(託児付き)
参加者：15名 @ちひろ美術館・東京
講師：田中満智子(親業訓練協会インストラクター)

親子のよりよいコミュニケーションを学ぶ講演会を開催。講義とロールプレイ、グループディスカッションを組み合わせた実践的な学びの場となりました。



参加者の声

「シンプルな気づきがあった。」「グループでの話し合いが良かった。」
「保育園の仕事に役立てたい。」
「能動的な声かけは、子どもだけでなく夫との関係にも活かせると思った。」

ワークシート・ブックリストの作成、配布

図書館と美術館が連携し、制作物を通して、アートと読書を楽しむ発信活動を行いました。また、読書推進の取り組みとして、絵本の歴史をひもとく講演会を開催しました。

●ワークシート「小さな命をみつめるまなざし」

制作：ねりま若者サポートステーション・ワークシート制作プログラム
就労支援団体「ねりま若者サポートステーション」を利用する若者たちとちひろ美術館が連携してワークシートを制作しました。打合せを繰り返し、来館者が作品や展示を楽しめるような工夫やデザインをワークシートに盛り込みました。



ワークシート制作プログラム参加の若者の声

「子どもから大人まで、いわさきちひろさんを好きないろんな人の気持ちを考えながら、チームのみんなで“これでよい”と決めたものをつくるのができた。」

「ちひろさんの資料や絵にふれながら、コンテンツを考えるのが楽しかった。」

「平和な雰囲気の中で協力し合えたので、いいアイデアがまとまった。自分のなかに他者への気配りや考えを伝える自信が深まった。」



●アートを楽しむブックリスト



制作：ちひろ美術館・石神井図書館・貫井図書館・南田中図書館
美術館と図書館が連携して「日本の絵本のあゆみ」というテーマでブックリストを作成しました。日本の絵本の歴史に親しみきっかけとなるよう、ちひろ美術館の学芸員の解説とともに、おすすめの本も紹介しました。

制作：ちひろ美術館・石神井図書館・貫井図書館・南田中図書館
「いわさきちひろがくらしした石神井」というテーマで本を選び、練馬区が所蔵する、ちひろが暮らした当時の石神井の写真とともに、ブックリストに掲載しました。

先進事例調査・研修

アクセシビリティを高めるという課題に向けて、先進的な取り組みを実践している美術館の事例に学ぶ調査訪問や、聴覚障がい者の方々へのヒヤリング調査などを行いました。あわせて「やさしい日本語」※の研修を受けるなど、これからの活動に活かす取り組みを進めました。

※「やさしい日本語」とは、外国人等にもわかるように配慮して、簡単にした日本語のこと。

実行委員会構成団体について

ちひろ美術館・東京 練馬区立美術館 特定非営利活動法人手をつなご

練馬区立石神井図書館 練馬区立貫井図書館 練馬区立南田中図書館 ねりま若者サポートステーション

企画・制作：「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム事業実行委員会
協力：NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 デザイン：櫻井恵美子

2023年3月発行